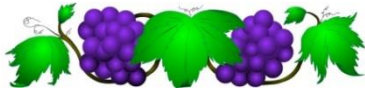


# “幼稚園にテレビがないわけ”

園長 高杉 洋史



二つ  
つながって  
サクランポ  
みたい♡



数年前はくるくる回転して遊ぶつわものがありました、今年はおとなしめです。

小さなブドウ棚にもブドウができました。酸っぱくても自分で収穫するとおいしいと言ってくれます。

毎月月末に九州保育研究会の集まりがあり、幼児教育にかかわっていらっしやる大学の先生はじめ幼稚園や保育園の園長先生や先生方、そして学生の皆さんと日頃よりゆっくりに話をする機会があります。その中でテレビやビデオなど視聴覚教材の話が出てきました。とてもびっくりしたのは、いまだに視聴覚教材を子守役に行っている幼稚園や保育園が結構たくさんあるという話でした。もちろん保育計画の中でこの場面では視聴覚教材を使ったほうが教育効果が上がるという意図で使われている分には問題ないのですが、今回の話は教諭や保育士が保護者へのメッセージを書くための時間をつくるために視聴覚教材に子守をさせている話です。

子どもたちは興味のあるアニメなどにはとても集中します。そして最近には質の良いアニメーションもたくさんありますからアニメの質の批判ではありません。言いたいことは集団教育、特に友だちとの育ちあいのために来ている幼稚園や保育園で、視聴覚教材を多用すると友だちや先生と触れあい、言葉を交わしたり、一緒に歌ったりダンスをしたりする時間が減ってしまうのではないかという心配です。言葉とかコミュニケーションの背後には心が裏打ちされています。したがって子どもが言葉を獲得する時にはその言葉が発せられた場面がとても大切です。そのような意図でゆりの樹幼稚園にはテレビがないのです。

シアタールームはあるのですが、今まで一番有効に使っているプログラムは

暗くして海ポタルの幻想的な発光を観察したことと影絵をしたことです。テレビやビデオと似ているようなものとして紙芝居や絵本がありますが、似て非なるものです。それは生身の大人が読んであげるからです。最近では朗読の上手なアナウンサーが読んだ絵本や紙芝居の教材もあります。アナウンサーの発声や読み方には私たちが逆立ちをして練習しても足元にも及びませんが、それでも子どもたちは担任の朗読を喜びます。それは担任の人間性とも触れ合いながら物語の世界に遊んでいるからです。質問したり、気づいたことをつぶやいたりして、先生や友達の反応も楽しみなが言葉の世界に遊び、そして身につけていきます。

というわけで、ご家庭でも可能な限りテレビより御家族のふれあいと会話の時間を大切にされることをお勧めします。そして引き続きお箸の持ち方、鉛筆などの筆記用具の持ち方にも目を向けていただけると嬉しいです。食べ物の好き嫌いは体の成長に影響を及ぼすだけかと思っていたところ、他の人を許容できることなどの心の成長にも影響する可能性がある話を聞き、そうかもしれないと思い始めているところなんです。ご家庭と幼稚園で心身ともに健全な力強い子どもたちに育てましょう。

